

偶然の積み重ね

財団法人 北九州産業学術推進機構  
産学連携センター  
産学連携 担当部長  
(産学連携コーディネーター)



富工 雅人  
Masato Tomiku

私が(財)北九州産業学術推進機構(FAIS)でお世話になり、産学連携コーディネーター業務を始めて、早くも2年が過ぎました。その間、右も左も判らないまま、(株)フジコーさんをはじめとする企業の研究開発部門の多くの皆さん、またFAISの諸先輩や事務方の多大なる協力のおかげで、何とか業務をこなせて来たことを、日々感謝しているところです。

現在の仕事については、元の職場の先輩が、長年FAISに勤務され、平成19年6月で定年退職をされたことを受け、元の会社が後任として私を指名したことに拠ります。

2年前を思い出すと、財団法人・コーディネーターとは何だろう、何をやるのだろうという疑問、自分で経験したことのない業務をやらねばならぬ不安などが頭の中を駆けめぐり、非常に不安定な精神状態で現業務をスタートしました。毎日が初めてのことばかりで、作成する資料が何故必要なのかも考えず、前任者の資料を常に正しいものとして対応をとり、自分の考えを仕事に加えることは出来ませんでした。

当時作成した資料を今見るとかなり多くの間違いに気がつきます。やっと現在の仕事になじんできたのではないかと感じております。

また、経験したことのない仕事であっても、過去の経験が生かせることを認識した2年間であったとも考えています。

私の仕事に関する過去の経験について、簡単に紹介いたします。小さい頃より科学に興味があり、当然のように工学部へ入学いたしました。3年生になると、教授の「つぶしがきく」との意見で機械工

学科に進みました。4年生になり研究室を選ぶとき、単純に「今は鉄の時代だ。」と鉄鋼材料の研究室を選択しました。

しかし、その研究室で与えられたテーマは、「粘弾性体のき裂伝播に関する研究」というウレタンゴムの強度に関するものでした。ポリウレタン樹脂を合成し薄いシート状に成形した物から短冊型の試験片を切り出し、 $-40^{\circ}\text{C}$ の低温で引張試験を実施する。き裂の伝ば状況を高速度カメラで撮影し、伝ば速度・ひずみ等の関連を調査するという内容でした。均一な温度条件を維持しながら長時間の実験が必要で、週2回の徹夜をほぼ1年間継続という生活を続けました。おかげで仕事に関しては忍耐力が出来たと思っています。研究内容自体は興味深いもので、かなりの研究成果をあげるお手伝いは出来たと思っておりましたが、やはり鉄鋼に関する勉強がしたく、他の研究室へ移ることにしました。

その研究室は溶接技術に関する研究が主体で、当時、水中溶接(重力式、サブマージ式)、プラズマ溶射(セラミックス、自溶性合金等)、摩擦圧接(快削鋼、工具鋼等)などの研究テーマが有りました。そこで「MIG溶接法へ高周波誘導加熱によるワイヤ予熱を適用した、ステンレス鋼の肉盛溶接についての研究」をやらせていただきました。基礎知識のないまま、溶接装置メーカーのカタログを見て、肉盛溶接装置の構想を練り、自分でポンチ絵を描いて、大学のゴミ捨て場で使えそうな装置をあさり、溶接トーチ、ワイヤ送給装置、オシレーション装置、制御装置など全て手作りで作り上げて、非常に楽しく研究に打ち込んだのを、懐かしく思い出します。

今思えば、実験・研究をするよりも、旋盤、フライス盤、溶接、はんだごてを使って実験装置を作ることに興味を抱いていたようです。希望通り鉄鋼メーカーに就職し、北九州へ赴任致しました。会社から配属先の連絡があった日、私は研究室の仲間と卒業旅行の最中で、大分から博多へ移動するところでした。JRの窓から自身が就職予定の会社の看板を見つけ、北九州に事業所があることに驚いたその夜、実家から北九州勤務の連絡が入りました。

最初の仕事は、製鉄所の上工程の機械保全ということで、耐食・耐熱・耐摩耗の世界を経験し、続いて圧延設備の機械保全で機械要素・機構の勉強をさせていただきました。また、圧延設備機械設計も担当させていただき、設備建設プロジェクトを通じて、様々な設備の設計製作業務を実施するとともに、工場部門と重工メーカー、中小の鉄工所との橋渡しの調整業務も数多く経験することが出来ました。その他、発電所の運転管理業務、環境管理・廃棄物リサイクルに関する業務等様々な業務を経験いたしましたが、製品を作って売る仕事は出来なかったことを残念に思っております。

今まで述べたような様々な経験について、2年前現職につく前は、あくまでも大学、製鉄所という特殊な世界の中での経験であり、別の世界では役に立たないと考えておりました。

しかし、先輩の業務を引き継ぐことで始まった(株)フジコーさんのお付き合いの中で、現在担当をさせていただいております「摩擦肉盛」及び、「SiCセラミックス」という2件の研究開発テーマは、かつての研究室の研究テーマであり、且つ自身の研究テーマと非常に近いもの、また自身の職場での最初の仕事に深く関係したものでした。その他の担当案件も元の会社で経験した熱処理炉建設、伸線設備建設等の事例の組み合わせで対応可能でした。

また、コーディネーター業務は、元の職場の設備建設プロジェクトの管理業務と非常に近い物でした。これらの事実は偶然ではありますが、今の仕事と私の何らかの因縁めいたものを感じてしまう出来事でした。

話は変わりますが、私は四国愛媛県で生まれ、父親の仕事の関係で高知県、愛媛県、神奈川県と転居を繰り返し、故郷と呼べるところが非常に不明確な人間です。就職により思ってもみなかった北九州に赴任して30年が過ぎ、結婚してから21年がたちました。子供は、小中高と全てを北九州で過ごし、北九州を故郷とし、羽ばたこうとしているところです。

これからも今の私を導いてくれたこれらの偶然を大切に、自身の経験を様々な分野に活かし、北九州の中小企業の皆様の事業化を目指した研究開発業務の支援に注力したいと思っております。